



Q 公金運用の 収益改善について



&

いいだまさよし
飯田正義 (文責)

A 金利上昇局面を捉え、安全性を保ちながら効率的な運用に努める。今後も年1回のペースで運用方法を見直していく

公金運用の 強化について

質問 基金運用の詳細公開と収益改善の取り組みは。

答弁 現在、10月広報で基金残高を公開している。

債券の含み益や運用詳細の公開は考えていないが、令和7年度の運用収入は700万円超で前年度の約2倍に増加する見込み。今後、金利上昇状況を把握し、人的体制を考慮しながら年1回のペースで運用方法を見直していく。リスクを避けた計画的な運用が重要と考える。

質問 現在の高金利環境を活かした運用強化を図るべきでは。

答弁 財政調整基金は標準財政規模の約30%にあたる11〜12億円を確保している。安全性を重視しリスクを避けることを前提に、適切な運用で収入が上がるのであれば、担当者に指示し積極的に取り組んでいきたい。

財政健全化の 方向性について

質問 繰り上げ償還の検討状況は。

答弁 交付税措置対象外の債務は約33億円ある。借入金金利と基金運用利回りの差は把握しておらず、保証金を考慮した繰り上げ償還については、これまで検討していない。

質問 公金運用を財政健全化の柱とする考えは。

答弁 公金運用を財政健全化の柱と位置づける考えはないが、有利な運用は検討したい。令和8年度に向けては、人件費の適正化とふるさと納税依存からの脱却を図っていく。ふるさと納税については、湯沢心のふるさと基金への積み残しを増やすことで、年間変動が財政運営に与える影響を緩和している。

DMO 支援体制について

質問 DMOの組織力強化の状況は。

答弁 町とDMOは月1回の意見交換会を実施しており、情報共有と連携を図っている。DMOでは専門的知見を有する事務局長の誘致に取り組んでいる。

自治体基金 運用比較表(令和 5-6年度 比較)

福岡市(大規模・安定型)	国東市(機動・売買型)	湯沢町(保守・預金型)
基金総額: 4,741億円 運用対象: 4,741億円 (100%・財政局一括)	基金総額: 183.4億円 運用対象: 183.4億円 (100%・一括運用)	基金総額: 26億円 運用対象: 16.2億円 (62%・一括)
債券比率: 78.6% 利回り: 1.163%	債券比率: 99.5% 利回り: 1.162%	債券比率: 35% 利回り: 0.23%
運用収入: 47.3億円	運用収入: 2.07億円 内訳 利子: 3,463万円 (17%) 売却益: 1.70億円 (83%)	運用収入: 380万円 含み損: ▲2,766万円
【運用戦略】 ・基金一括運用システム ・長期債券中心運用 (20-30年債) ・ラダー運用導入 ・規模の経済活用 ・安定的保有戦略 規模を活かした安定・効率運用	【運用戦略】 ・基金一括運用システム ・長期債券中心運用 ・機動的売買戦略 ・1億円単位分割売買 ・金利変動対応型運用 変化対応型ダイナミック運用	【運用戦略】 ・基金一括運用システム ・国債中心の保有運用 ・売買戦略なし ・大部分が預金待機 ・保有継続型運用 元本保全最優先の保守運用

公金運用の比較別について

湯沢町の現状と提言

現状課題	
【根本的問題】 「元本保全優先」が新たなリスク (機会損失・含み損)を創出	
【具体的課題】 ・利回り0.23%と極めて低水準 ・含み損▲2,766万円発生 ・未運用資金10億円(38%) ・売買戦略の完全不在 ・年間機会損失約1,500万円	

改善シミュレーション				
シナリオ	運用	利回	年間収入	増収額
現状	16.2億	0.23%	380万円	—
パターン①	16.2億	0.50%	810万円	+430万円
パターン②	16.2億	1.16%	1,879万円	+1,499万円
パターン③	26億	1.16%	3,016万円	+2,636万円

【シナリオ解説】

パターン①: 現運用額で利回り改善 (国債・国庫短期証券等)

パターン②: 現運用額で他市並み利回り達成 (債券運用本格化)

パターン③: 未運用10億円活用+他市並み運用 (フル活用モデル)

※(パターン③は国東市の実績利回り1.162%を参考に設定)

現状と提言について

質問 DMOがイベント重視に偏っているのでは。

答弁 イベントも町の観光にとって重要だが、DMOの本質は「地域の稼ぐ力を引き出す」ことにある。イベントやキャンペーンだけでなく、データに基づいた顧客目線の事業計画を推進すべきと考えており、今後もこの認識をDMOと改めて共有していく方針である。